2 イカ、サバ資源動態調査

I 調査目的

本県太平洋岸に来遊する沿岸資源のうちスルメイカおよびサバの漁況を把握し、来遊資源量、分布移動、生態について調査研究をおこない特にスルメイカについては、漁海況予報事業とあわせて漁業経営の安定に資する。

II 調査内容

- 1 調査期間 46年7月1日～11月30日まで
- 2 調査場所 本県太平洋沖合
- 3 調査員および調査船
 - (1) 調査員 漁業課長 浅加 信雄 主任研究員 斎藤 重男 技師 赤羽 光秋
技師 十三 邦昭 技師 中田 凱久 技師補 松井 謙介
 - (2) 調査船 瑞鷗丸 (40・81トン D 160PS)
東奥丸 (38・35トン D 120PS)
- 4 調査項目
 - (1) 海況調査
 - (2) 漁況調査
 - (3) 魚体側定
 - (4) 情報収集

5 調査方法

調査員1名が交代で八戸市に駐在し、当業船からのきぎとり調査および試験船の調査結果、魚市場陸揚調査ならびに魚体測定等をもとにして、漁況概況を作成し、日報として、八戸漁業用海岸局から沖合各船に通報するとともに、市内に設けた掲示板に掲載し、地方紙にも掲載広報した。また、8月1日から10月20日まで実施した漁海況情報伝達の迅速化試験事業の業務を担当した。

III 調査結果

- 1 海況調査
- 2 漁況調査
- 3 魚体測定

については、漁況海況予報および太平洋スルメイカ漁場調査結果と重複するので省略した。

IV 調査の成果および今後の課題

1 調査の成果

毎年、漁期中調査員が駐在し、漁況日報を作成し、広報してきているが、沖合操業船の無線広報の聴取率が非常に高くなってきている。

2 今後の課題

- (1) 問題点
現況把握から更に精度の高い予報を加味し、広報する必要がある。
- (2) 今後の課題
漁況の規則性をみちびき出すための、基礎資料の蓄積が必要である。